

中山間地域における伝統的動植物利用と環境教育での活用 ～上野原市における聞き取り調査～

池田 惇人（帝京科学大学 環境教育・インタープリテーション研究室）

指導：古瀬浩史

キーワード：自然体験、上野原市、地域に根ざした教育（PBE）、中山間地域

1. はじめに

「中山間地域」とは、農林水産省によると、農業地域類型区分のうち、中間農業地域と山間農業地域を合わせた地域を指す。山地の多い日本では、中山間地域が総土地面積の約7割を占めるとされている。中山間地域における農業は、全国耕地面積の約4割、総農家数の約4割を占めるなど、我が国農業の中で重要な位置を占めている¹⁾。

中山間地域には、農的な暮らしが営まれてきた集落、それを取り巻く田畑、草地、ため池など多様な環境があり、それらは、「里地里山」（以下里山とする）と呼ばれ、生物多様性保全上も重要な場所とされている²⁾。

都市生活者が、生活に必要な物資のほとんどを商店での購入等で得ていると思われるのに対し、中山間地域に暮らす人々は、里山に存在している動植物資源を、日々の遊びや食事などに利用していたと考えられる。

小柳らは、新潟県十日町市に位置する2つの集落を対象として、中山間地域に暮らす人々の戦前から現在にかけての植物資源利用に関して調査し、92種類の植物資源利用が行われていることを報告した。また、中山間地域に暮らす人々の伝統的生態学的知識の多くが消失しつつあるとした上で、過疎・高齢化が進む中山間集落においては、今後、植物資源利用に関わる知識は加速度的に消失していく可能性が高く、生きた知識として継承していくことが緊急の課題であるとした³⁾。

中山間地域における動植物資源利用の視点は、地域の環境を理解する学習にもつながるのではないかと考える。

高野は「地域に根ざした教育（PBE：Place Based Education）」について総論的にまとめた論文の中で、さまざまな関係性から成り立っている空間を「地域

と捉え、地域の環境教育において環境課題を解決する動機、知識、行動力をつけるには、自然の中での多様な体験は欠かせないと指摘している⁴⁾。

本研究では、首都圏への通勤圏内に位置する、比較的都市に近い中山間地域である山梨県上野原市において、当地で生まれ育った70歳前後の市民を対象に、生活の中での植物および動物の利用に関する聞き取り調査を行った。それらの結果から、首都圏に近い中山間地域における動植物資源の利用の事例をまとめる。また、それらの伝統的動植物利用の視点が「地域に根ざした教育」特に環境学習においてどのように活用可能かについて検討した。

2. 方法

聞き取り調査は、山梨県上野原市大倉地区出身のA氏（70歳）と山梨県上野原市大曾根地区出身のB氏（71歳）、いずれも男性の2名を対象に行った。聞き取りの方法は半構造化インタビューとし、事前に以下の質問項目を用意した。

- ① 庭にはどのような植物が植えられていましたか？
- ② 幼少期はどのようなことをして遊んでいましたか？
- ③ 山の中で遊んでいた思い出などはありますか？
- ④ 遊んでいた際、山の植物などを利用したことはありましたか？
- ⑤ 薬草として植物などを使っていたりしましたか？
- ⑥ 幼少期に好きだったまたは思い出に残っている食べ物などはありますか？
- ⑦ 山の木の実や山菜などを食べられたりしていましたか？
- ⑧ 食べる以外に植物を利用されたことはありますか？
- ⑨ 野生動物を食用として利用していたことなどはありますか？
- ⑩ 生垣や果樹といった植物利用はされていましたか？されていたとしたらどのような植物でしたか？

聞き取り内容は録音し、後に内容を書き起こした上、関連している部分の順番を入れ替えるなど、整えた文章を作成した。聞き取り調査対象者本人に内容を確認してもらい、資料化した（資料 2,3）。それらから、植物および動物の利用を抽出し、種および利用目的を整理した。利用目的は、「食用」、「薬用」、「用材」、「飼料・肥料」、「遊び」の5つに分類した。なお、複数の利用目的をもつ種については、利用数を合算して（例えば、食用 1+遊び 1、利用数 2）集計を行った。

3. 結果

(1) 里山の動植物利用

聞き取り調査から得られた動植物の利用を資料 1 にまとめた。また、両氏併せた動植物の利用件数のグラフを図 1 に示す。A 氏が利用していた動植物は、植物および菌類が 41 種、動物が 29 種、計 70 種（利用数 85）、また B 氏は植物および菌類 36 種、動物 23 種、計 59 種（利用数 70）であった。AB 両氏の結果を併せ重複を除くと植物および菌類 66 種、動物 43 種、計 109 種（利用数 126 種）の利用が確認された。

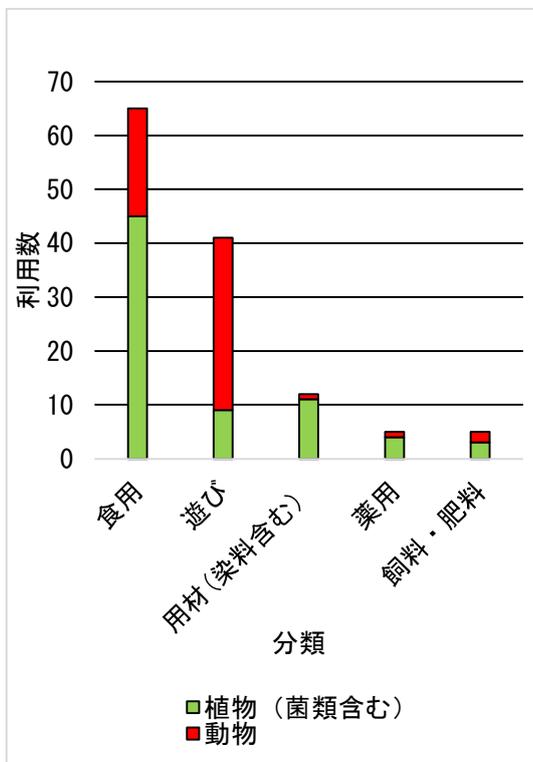


図 1 A 氏、B 氏を併せた動植物の利用件数

「食用」や「遊び」の利用数が特に多かった。

「食用」としての利用事例では、植物ではカキノキやクワなどの果実があった。また、動物の「食用」利用としては、ニホンヒキガエル（調査地区ではゴットンベエやキンゴトウと呼ばれている）など多くの利用が確認された。「遊び」の利用は、魚釣りで様々な動植物が利用されていた（後述）他、スギやシノダケを使った「チャンバラ」などの遊びや昆虫同士を喧嘩させる「遊び」も複数種で確認された。「薬用」での利用は、ドクダミのしぼり汁をおできに塗る、マムシの焼酎付けを風邪の際に飲むといった利用が確認された。

(2) 里山の活動と様々な動植物利用

聞き取り調査の中で、1つの活動に関連して、様々な動植物が組み合わせられて活用される事例があった。例えば「釣り」の活動では竿を作るためのシノダケ、「さでわく(さで網)」と呼ばれる手網を作るためにカヤ、桙や網に防腐剤として塗る柿渋の原料となる果実を使うカキノキ、釣りの餌となるブドウスカシバの幼虫（ブドウ虫と呼ばれている）、その他釣り餌に用いる水生昆虫やミミズ等、釣った魚を燻製にする際に使用するサクラのチップといった多くの動植物が利用されていた。

「釣り」という遊びが成立するためには、地域に生息する魚の種類、それらの生息場所、好む餌（食性）、餌の捕れる場所（例えばブドウスカシバは、ヤマブドウやエビヅル、栽培種のブドウに発生する）、また道具を作るためには木本の材としての特性などの知識が関連している。これらには、生物の生息環境や食性、生物間相互作用など生態学的な知識が含まれている。

また、「養蚕」という活動に関連しては、カイコガ、カイコの餌であるクワの葉、カイコの糞を肥料に育てられる野菜、おやつとして食べることもあったというクワの実、クワの木に菌を塗って栽培したナメコやクリタケなどが関係していた。

これらの、活動と動植物利用の関係を図 4 図 5 にまとめた。

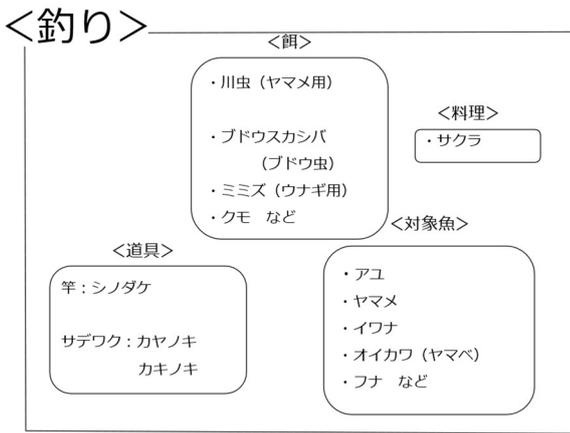


図 4 活動と動植物利用の関係

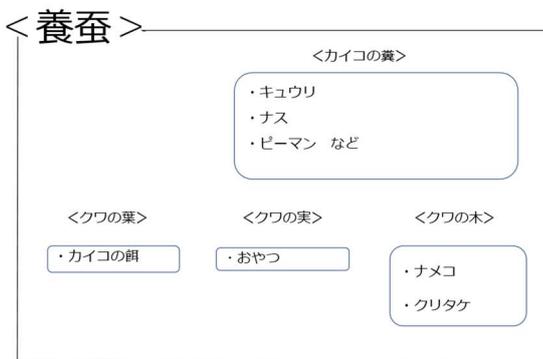


図 5 活動と動植物利用の関係

4. 考察

今回の調査地の上野原において、多くの動植物利用が見られた。またそれらの利用は、釣りや養蚕といった活動の文脈で、互いに密接に関連していた。本論の冒頭において述べたように、地域は「さまざまな関係性から成り立っている空間」であり、里山の人の活動は、それらを巧みに利用している。また逆に、人の動物利用が自然環境にも影響し、地域の景観を作り出しているとも言える。例えば、上野原は、かつては養蚕や繊維産業が盛んであり、地域の経済を支えていた。1970年代の植生図では桑畑が多くの面積を占めている。

里山地域の動植物利用を、釣りや養蚕のような具体的で実体験を伴う活動を通じて学ぶ教育プログラムは、「つながり」を重視する環境教育として、大きな意味を持つと考えられる。例えば、地域の子どもたちがカイコの飼育に取り組むような学習プログラムでは、昆虫の生活史や、生物間相互作用、桑畑の維持やカイコの糞の利用も含めた循環型の生活、

また地域の歴史など、多くの学習要素を扱うことが可能になると思われる。

「地域に根ざした教育」の意義として高野は「PBE は子どもたちの学ぶ意欲を総合的に高め、幸福な人生を自分で歩める準備をし、自分たちで社会の課題を解決する意欲と信念を持つ人づくりを目的としている」と述べている⁵⁾。例えば、「釣り」という活動では、釣り竿に適した竹を探すことや魚の食いつきが良い餌を探すといったように、子どもたちが遊ぶことを通じて、自然について自ら学ぼうとする意欲が高まることが期待される。

今回の、2名を対象にした聞き取り調査の結果では、109種の動植物利用が確認されたが、調査対象を増やせばもっと多くの動植物利用を確認できるかもしれない。このような伝統的な動植物利用、動植物に関する知識のなかには、次世代の地域市民が、自分たちの住む場所の中で、体験を伴いながら自分たちの生活と関連付けて環境について学ぶための、素材が含まれているものと考えられる。

最後に、聞き取り調査の際に印象に残った発言を紹介したい。

A 氏「お金を出せば何でも買える時代になってきましたので、だんだんと動植物を利用することも少なくなってきました。」

B 氏「今は、他の木が伸びすぎてしまった影響で栗の木が少なくなっていますね。その影響もあって動物が山に住めなくなって、人の住んでいるところに出て行ってしまいます。」

5. 今後の課題

里山の動植物利用に関してより有用な資料を作るためには、調査対象の人数を増やす必要があると思われる。また、高齢の方が持っている里山の伝統的な知識を子どもたちに伝えていけるような取り組みが必要になると思われる。

6. 謝辞

本研究をまとめるにあたって、古瀬浩史先生、対象地域にお住まいのお二人に多大なご助力をいただきました。心より感謝申し上げます。

7. 参考文献

- 1) 農林水産省：中山間地域等について：農林水産省ホームページ

https://www.maff.go.jp/j/nousin/tyusan/siharai_seido/s_about/cyusan/, 2022. 1. 27 参照

- 2) 環境省：里地里山とは：環境省ホームページ
<http://www.env.go.jp/nature/satoyama/top.html>,
2022. 1. 27 参照
- 3) 小柳知代；米澤健一．伝統知に基づく多様な植物資源利用とその変遷：新潟県十日町市に位置する中山間集落を事例に（特集 自然・文化と環境教育）．*環境教育学研究= Environmental education studies, Tokyo Gakugei University: 東京学芸大学環境教育研究センター研究報告*, 2015, 24: 3-14.
- 4) 5) 高野孝子．地域に根ざした教育の概観と考察：環境教育と野外教育の接合領域として（特集 水辺・里山の歴史と文化を未来の子どもたちへ）．*環境教育= Environmental education*, 2013, 23. 2: 27-37.

資料1 動植物利用のリスト

分類	標準和名	通称	用途	使用器官	活用方法
木本	ツゲ		庭木・用材	幹・枝・葉	
	マツ		庭木・用材	幹・枝・葉	門下ぶりの松
	カシ		庭木	幹・枝・葉	防風林
	カキ		食用・用材	果実	柿渋としても使われ、果実はおやつとして食べた
	ブドウ		食用	果実	ブドウ虫が生息
	ユズ		食用	果実	
	タラノキ		食用	新芽	
	クワ		食用	葉・果実・幹	カイコの餌 果実はおやつ ナメコの原木
	キウイ		食用	果実	
	リンゴ		食用	果実	
	カヤ		遊び・用材	幹	釣り竿として使用
	サクラ		食用	幹	チップを燻製に利用
	ウメ		食用	果実	果実を梅干し 梅酒
	ツツジ		遊び	花	観賞用
	サンショウ		食用	葉	香り付け
	カシワ		食用	葉	柏餅の葉として利用
	ナンテン		遊び	葉	
	スギ		遊び・用材	種子・枝	遊び道具
	モミジイチゴ?	山莓	食用	果実	おやつ
	アケビ		食用	果実	おやつ
	プラム		食用	果実	おやつ
	ミカン		食用	果実	
	サカキ		用材	幹・枝	
	カシワ		食用	葉	
	イタドリ		食用	新芽	
	ヒノキ		用材	幹・枝	
	シドメ		薬用	果実	
	クリ		食用	種子	
	ビワ		食用	果実	
ポポーノキ?	ぼぼの木	食用	果実		
草本	ワラビ		食用	新芽	
	ドクダミ		食用・薬用	全草	乾燥させて煮だした汁を飲み、おできに塗った
	ススキ		用材	全草	
	イネ	ワラ	用材	全草	鳥の小屋として利用
	キビ		食用	種子	
	アワ		食用	種子	
	ムギ		食用	種子	
	ヒエ		食用	種子	
	サトイモ		食用・薬用	根・茎	茎を折って虫刺されに塗った
	サツマイモ		食用・飼料	根・茎	茎を牛の餌
	トウモロコシ		食用・飼料	果実	茎を牛の餌にした

	コムギ		食用	種子	
	アズキ		食用	種子	
	ダイズ		食用	種子	味噌に加工
	ショウガ		食用	根	
	ミョウガ		食用	蕾	
	クマガイソウ		遊び	花	観賞用
	エビネ		遊び	花	観賞用
	フキ		食用	茎	
	ワラビ		食用	新芽	
	コゴメツツジ?	コメツツジ	遊び	花	観賞用
	トリカブト		遊び	花	観賞用
	ヨモギ	餅草	用材	葉	曇り止め
竹	モウソウダケ		食用	新芽	
	マダケ		用材	節(茎)	畑の道具
	アオダケ		用材	節(茎)	畑の道具
	シノダケ		遊び	節(茎)	遊び道具
菌類	ナメコ		食用		クワの木を原木
	シイタケ		食用		菌を木に打ち込む
	クリダケ		食用		
	ホウキタケ		食用		
	クリタケ		食用		
哺乳類	ウマ		その他		荷物運び
	ウシ		食用・肥料		牛乳と肉糞を肥料
	サル		遊び		ペット
	ヤギ		食用		ヤギミルク
	ネコ		遊び		ペット
	イヌ		遊び		ペット
	ウサギ		遊び		ペット
	イノシシ		食用		猟友会が肉を販売
	シカ		食用		猟友会が肉を販売
	ブタ		食用		出荷
鳥類	ニワトリ		食用		卵
	チャボ		遊び		ペット
	キジ		遊び		ペット
	インコ		遊び		ペット
	ウグイス		遊び		ペット
爬虫類	マムシ		食用・薬用		焼酎付けにして飲み、ガーゼに付けて腫れているところに塗った
	シマヘビ		食用		
両生類	ニホンヒキガエル	キンゴトウ・ゴットンベエ	食用・遊び		焼いて食べた
魚類	ウナギ		食用・遊び		
	ホンモロコ	モロコ	食用・遊び		
	カジカ		食用・遊び		
	フナ		遊び		観賞用
	コイ		遊び		観賞用
	ヤマメ		食用・遊び		
	イワナ		食用・遊び		
	ウグイ?	ハヤ	食用・遊び		

	ハジカ		食用・遊び		
	オイカワ	ヤマベ	食用・遊び		
虫類	ブドウスカシバ	ブドウ虫	遊び		魚のえさ
	カイコ		用材・肥料		絹を売り、糞は肥料
	カブトムシ		遊び		ペット・喧嘩させた
	カブトムシ(メス)	マグソムシ	遊び		喧嘩させた
	クワガタムシ	クワガタ	遊び		喧嘩させた
	コガネムシ		遊び		喧嘩させた
	イナゴ		食用		甘露煮にした
	アシナガバチ		食用		幼虫を油で炒る
	スズメバチ		食用		幼虫を油で炒る
	スズムシ		遊び		ペット
	ピンチョロ	川虫	遊び		溪流釣りの魚の餌
	ザトウムシ?	蜘蛛の糸がかかったような虫	遊び		溪流釣りの魚の餌
	アワフキムシ		遊び		溪流釣りの魚の餌
	アシナガバチ	足つるしの子	遊び		溪流釣りの魚の餌
	ジバチ		遊び		溪流釣りの魚の餌
クモ		遊び		溪流釣りの魚の餌	
その他	ミミズ		遊び		鰻の餌として利用

資料 2 A 氏への聞き取り調査

Q1. 庭とかがあればなんですけど、どんな植物が植えられていましたか？

A1. 一応庭には、ツゲの木が一本父親の代から植えたやつで今ちょうどこのくらいのツゲの木ですね。30cmくらい根元はあると思うんですけど、ツゲの木と門かぶりの松があったんですけど、木が倒れてきて車が入らなくなったので、親父には申し訳なかったんですけど、切りました。昔の部落ですからそれでちょっと高台にありますので、台風とかそういう時に風当たりが強いんですよ。やっぱりこっちの方は、防風林として家を守るために周りに樫(かし)の木とかそういうのは結構植えてあったんですよ。昔は。今は逆にそれを使いますと家の樋(とい)が壊れたり、そういうのがありますんで、自分が定年する前に自分で伐採しちゃったんですよ。樫の木もこのくらいあったんですけど、重機で突きながら倒して、それを3本ほど倒して、今残っているのは、一本だけです。

植物種: ツゲの木・マツの木・カシの木

Q2. 庭木は何かありますか？

A2. 庭ですか？庭にはとりあえず裏に柚子。ゆずも庭先にあったんですけど、それを動かしたんですよ。そしたらやっぱり10年近くなりませんでしたので、それで冗談で「実をつけないと切っちゃうぞ」ついたら、いくつかなりまして、今は5mくらいの高さになっています。裏には柿の木、そして、ブドウを植えたんですけど、やっぱりブドウ虫が入りまして、枯れました。他は、今作っているのはうちの裏に竹藪があるんですけど「孟宗竹(もうそうちく)」というそれで、先生にも前に一回持って来た、うちの横にあるんですけどこれくらい太くなるんですよ。だからそれももう竹、タケノコいっぱい出すと密集しちゃうんで、だいたいおろぬいて、ほいでタケノコを食べてる状態なんです。

植物種: ユズ・カキ(百目柿)・ヤマブドウ・モウソウダケ

Q3. 柿は干し柿ですか？

A3. そうですね、干し柿ですね。百目柿(ひやくめがき)という渋柿ですね。柿は、8年くらいたないとならないんですよ。そこで柿渋を木に塗ったり、自分は、魚釣りしたんで「さでわく」を樫木(かやのき)を切ってきてまして、きれいに作ってそれに柿渋を塗ったり、でもすごい臭いんですよ。

植物種: カキ(百目柿)・カヤの木

Q4. タラの木は自然のものですか？

A4. タラの木は、山に植えられているやつですね。養蚕やっているところに桑の木があるじゃないですか。それが段々中国産の安い絹が入ってきた(そのことで養蚕が衰退し、桑の木の管理も放棄された)ので、森林組合で講習会が一日あったんですよ。その時自分仕事休んで講習会親父と2人行って、タラの木を桑原に刺す。そうするとタラの芽が出てきて、それをパックに詰めて売れば収入になるんですよ。うちなんかは売るより食べる方が多かったです。

植物種: タラの木・クワの木

Q5. 他に庭に意図的に植えられているものはありますか？

A5. 庭に植えられているのは、梅・桜があって、その桜の木というのは子どもたちが小学校の時にいくつか東南アジアの方から配られたのが桜の木でした。その桜の木を(じゅんろくどう?)のために庭の鉢へ入れて、育てました。埋まっているのは、桜・小さい松、松竹梅を作りたかったので、竹のちょっといいやつ植えて、梅は花が咲きました。

植物種: ウメ・サクラ

Q6. こころ辺のお庭は、ツツジがありますけど(中村さんの自宅はどうですか？)

A6. ツツジは、職場で頂いた方からピンク・赤・白の3種類の花が咲くツツジをもらいました。それを庭に植えていました。

植物種: ツツジ

Q7. 他の地域の庭には山椒(さんしょう)が植えられていましたけど(どうですか？)

A7. 山椒あります。春先に若い芽を摘んできて、うどんとかにちょこっと入れて香り付けですね。葉っぱを香りづけに使っていました。竹藪のわきのところに植えてあります。あとは、山椒といえばクマガイソウは40本くらい芽が出てました。ほんとに3株ほど知り合いからもらいまして、それを竹藪にはなしたら、助言として午前中3時間くらい日の当たる場所で午後はもう日があんまり通らないところということで、竹藪の脇のところにやりましたら、50本くらいになりました。近所でほしい人が頂戴なんて言うんですけど、なかなか発泡スチロー

ルでは難しいんですよね。クマガイソウがあって、あとは一時期エビネに凝ったことがあります。山で取ったり、買ったりして、そのエビネを今家の裏にコンクリートで枠を作ってそのなかにはなしているんですよ。山行って、春先5月ぐらいにエビネの赤エビネなんか見つけるととんでもない金額になる。色が違うんですよ。普通紫色に白なんですけど、ほんとに赤が強いんですよ。

植物種: サンショウ・クマガイソウ・エビネ

Q8. あとは、柏の木もありましたね。

A8. 柏餅の葉っぱは、今うちでは作ってないです。昔は、近所にあつてそこからもってきていたんですよ。あれもすぐに木が伸びるんですよ。だから、今の人は段々嫌ってきちゃって家の前に植えると、切るのにお金がかかるようになってしまう。何十万とかかかってしまうので、家の周りにはこの頃植えないですね。

植物種: カシワの木

Q9. 南天(ナンテン)とかは?(庭に植えられていましたか?)

A9. ナンテンは、自然に生えてます。

植物種: ナンテン

Q10. ブドウ虫っていうのは、葉を食べる?

A10. ブドウの蔓ありますよね。ツルのところに入ってくるんですよ。そして、ぶくっと膨れるんですよ。それがまた、魚のえさになるという。マスとかヤマメを釣るときに使うんですよ。山ブドウの蔓のところを切っているのが天然のブドウ虫ですね。ブドウ虫を釣りのえさにと買うと一本100円くらいするんですけど、ただ入ってない場合もあります。中に膨らんでるんですけど、追ってみるとは言っていない時があります。家の周りに植えられていたものと言ったら、ブドウは枯れましたので、畑の方ではキウイフルーツを作っていました。リンゴ・キウイフルーツ・柿の木もあります。

植物種: ヤマブドウ・キウイフルーツ・リンゴ

動物種: マス・ヤマメ・ブドウ虫

Q11. 昔は竹でなんか作ってたりしてたんですか?

A11. 孟宗竹ですから節が短いんですよ。籠とかを作るときは、やはり真竹。真竹っていうのは、節と節の間がだいたい長い奴だと40cmぐらいあるんですよ。真竹は、ほかに山にありますんでたけど普通孟宗竹で作ってもほんとに節のところが丈夫なんで、鉋(かんな)をかけると鉋の刃が丸くなってきます。ただ今は、野菜とかを作るのにビニール、青竹みたいなやつを曲げて、というのがありますが、昔は、もう孟宗竹を割って手に刺さらないように鉋かけまして、先端をとがらしまして、三脚みたいに作って弓の形に放置しとくんですよ。そうすると春先その形で残りますので、それで耕したところに肥し撒いて、種撒いて(ウェーブ状にした孟宗竹を)刺して、トンネルかけた。そういうこともしました。今はもういいもの売っているんですけど、お金を出せば何でも買える時代になってきましたので。ぬけなし籠の小さい奴ですね。箆の小さい奴ですね。そういうのを作ったり、あと樽の桶皿があってその周りに竹で編んだと思うんですけど、それを噛まして広がらないようにというのうちの父親はやっていました。

植物種: モウソウダケ・マダケ・アオダケ

Q12. 山菜や山の植物を食べられたりしてましたか?

A12. 蕨(わらび)それとタラの芽です。昔は、養蚕が盛んだったんですよ。副業として一時的な収入が入るんですよ。養蚕をやる方は、年5回くらいできるんですよ。だけどうちは年3回くらいしかやってなかったです。(蚕の繭は)1gで1万円になります。絹が高かったんで、それでうちは10~15g やりまして、それで一時的に収入を得てたんですけど、自分も手伝いました。繭になる前蚕さんかわいいじゃないですか。新幹線のゼロ系みたいな顔して、それを繭にするまで桑(くわ)を食べさせます。

植物種: ワラビ・タラの芽・クワの木

動物種: カイコ

Q13. もう蚕をやっている人は集落にはいないんですか?

A13. 今は、中国産の安い奴が出回ってますんで、やってないですね。蚕のうんちが肥料になるんですよ。畑の。小さい蚕の糞がまとまるととんでもない量になります。そこ(大学の馬センター)で馬飼ってますけど、馬糞の肥料があるじゃないですか、あとうちでは牛飼ってます、牛糞と蚕の糞を肥料にしていました。

動物種: ウマ・ウシ・カイコ

Q14. 上野原って雑穀が有名じゃないですか。雑穀は作っていましたか?

A14. 粟(アワ)と黍(キビ)を作ったことがあります。
植物種:アワ・キビ

Q15. 粟や黍などは炊いて食べたんですか？

A15. 脱穀機で脱穀して、精米機があったときは精米して、精米は難しいんですよ。粟はそのまま食べても粘り気がないんですよ。今自分で作っているのは、野菜はキュウリ・ナス・ピーマン・しし唐・トマトですかね。
植物種:キュウリ・ナス・ピーマン・シントウ・トマト

Q16. 種を自分で取ったものありますか？

A16. 小麦や小豆なんかは昔作っていました。大豆を作ったり、大豆でみそ作ったりしました。庭では人参も作っています。
植物種:コムギ・アズキ・ダイズ・ニンジン

Q17. みょうがは？

A17. みょうがは、昔から勝手に庭に出てきます。
植物種:ミョウガ

Q18. 植物のことなんですけど、食べる以外に薬として使っていたものとかありますか？

A18. 自分が使ったのは、ドクダミです。ドクダミを乾燥させたんですよ。煮だすときは母ちゃんにさらして袋を作ってもらって絞ったドクダミの液を取っておいたんですよ。それを毎食それからジュース代わりに飲んでいました。味はですね十六茶とまるっきり同じ味がします。あとは、おできがいっぱいできたときには、ドクダミの葉っぱを少しあぶって、汁を出して貼るとタコの吸出しと同じ働きをするんですよ。膿を中から取り出してくれるんです。
植物種:ドクダミ

Q19. ドクダミ以外に小さい時これ塗っとけというものは何かありましたか？

A19. 虫刺されには里芋の茎を塗れとかはありましたね。里芋の茎を折って、虫に刺されたら塗れとかは言われていました。
植物種:サトイモ

Q20. 遊びの一環として植物を利用されていましたか？例えば笹船など。(はどうですか？)

A20. 笹船は作りました。あとは、葉っぱを飛行機代わりにしたり、シノダケで鉄砲を作ったりしていました。杉の種を詰めて飛ばしていました。竹で竹鉄砲を作ったりもしました。
植物種:スギの木・シノダケ

Q21. 牛などは何年前くらいに飼っていたんですか？

A21. 牛を飼っていたのは、昭和44年(1969年)くらいです。それもだんだんと(買う)牛乳の方が安くなってきたので、肉牛の方に切り替えまして、小さい牛を飼ってきますんで、1頭だいたい10何万して、(肉として)出すときにだいたい45万~50万近く。それがだいたい昭和45年くらい(1967年)に乳から肉に変えました。私がちょうど努めたのが45年ですから、それからだいたい親父が仕事しながら飼っていました。
動物種:ウシ

Q22. 牛飼っていたってことは茅場(かやば)などもあったんですか？

A22. そうですね。機械で田んぼも作っていたので、藁やサツマイモやトウモロコシの茎を牛に挙げていました。牛のえさ用のトウモロコシがあったんですよ。
植物種:ワラ・サツマイモ・トウモロコシ

Q23. 馬は飼っていなかったんですか？

A23. 馬も飼ってました。馬はですね、父親が山で林業の方が木を伐りますよね。それをソリに乗せて、前は車が入れないじゃないですか。道路が狭くて。そこをソリに乗せて、束ねて馬に引かしたんですよ。それを引いて木を一本出して、それがだいたい昭和 39 年(1964 年)くらいですね。あとうちで飼っていたのは猿。猿はうちの上のうで飼っていたんですよ。その方が外国に行って、猿を飼ってきたんですよ。そして猿が逃げ出して、うちの親父が桜の木にいたのを棒でつついて落としたり、そしたらもうこれはいらぬからあげると言われてそれから親父が飼いはじめました。

動物種:ウマ・サル

Q24. (ヤギを飼育していたとのことですが)ヤギの乳ってどういふふうに活用するんですか？

A.24 ヤギは沸かして、牛乳と一緒にですね。ちょっと牛の乳より青臭いようなにおいがします。いたのは、馬・牛・ヤギ・それにウサギ・猫・犬・ニワトリがチャボと普通のニワトリですね。

動物種:ヤギ・ウサギ・ネコ・イヌ・ニワトリ・チャボ

Q25. (ニワトリやチャボ)それは卵？もしくは肉？

A25. 違います。チャボはそのまま飼って、山へワラビを取りに行きますと養蚕やってる時ススキの根にだいたいキジが卵を産むんですよ。そうするとキジが飛び出て、そこから卵を取ってチャボに温めさせると卵がかえるんですよ。そしてそのキジを育てて飼ったことがあります。亡くなるまでペットとして飼って、最終的には(はつで?)になりました。

植物種:ススキ

動物種:チャボ・キジ

Q26. メジロなどは飼ってたりしていましたか？

A26. メジロは飼っていませんでしたが、手乗りインコを飼っていました。小さい時からオスとメス飼ってきまして、それを自分で餌あげながら小屋を自分で藁(わら)で編んだんですよ。だんだん大きくなるにつれて自分が親なんだと教えるために世話をしていたら手に乗るようになりました。メスなんかは飛んできて頭の上に乗ってきました。あまりインコは長く生きないんですよ。その後、孫が生まれてインコ病などが心配だったので飼うのはやめたんです。

植物種:ワラビ・タラの芽・クワの木

動物種:インコ

Q27. 集落の方は獣を撃って食べたりしていたんですか？

A27. 猟友会の人に来てくれて、駆除してくれるんですよ。たまに熊が出たり、イノシシあとシカが出ました。それを猟友会の人撃って、肉にしてそれを売って収入にしていました。

動物種:イノシシ・シカ

Q28. キノコなどは採ったりしていましたか？

A28. 桑の木でなめこを作るには、なめこの菌を塗るんですよ。桑の木の皮は柔らかいのでそこになめこが出てくるんですよ。あとは桜の木でもできます。あとは、クリタケ(栗茸)っていうのも作ったことあります。栗みたいな形をしているんですけど、栗茸の菌を打ち込んで置くと木の色が栗みたいになるんですよ。シイタケは、父親がいるときは 500 本ありました。それを乾燥にしたり、できる直前のシイタケにシート掛けると正月頃に食べられるんですよ。ただそれをやると 5 年も木が 3~4 年しかもたなくなるんですよ。微妙に短くなります。昔は、山から木を降ろすときはロープをつけて、枝を落として親父と 2 人で引きずりおろして、それを使うんですよ。15 cm から 20 cm の原木が一番菌が回りやすいです。一つの菌が持てる範囲が半径 15 cm というのを聞いたんですよ。1m くらいの木に 30 個程菌を打ち込むんですよ。

菌類:ナメコ・クリタケ・シイタケ

Q29. 虫は利用されていましたか？

A29. 虫は、カブトムシ。カブトムシは、山へ行って木の葉なんかがあると腐葉土に使うんですよ。枠を作ってそこに落ち葉を入れて、網を被せておいて石灰を撒いて水をかけてあげると熱を持って、発酵させると 1 週間くらいでよい腐葉土になるんですよ。そこにまた山から木の葉拾ってきて撒いてあげると、いろんなカブトムシが出てくるんですよ。

動物種:カブトムシ

Q30. (今も)落ち葉溜め作っているんですか？

A30. 今は、サツマイモの苗をなすために作ってるんですよ。サツマイモは、暮れに採ってから落ち葉をいっぱい溜めてその中に入れて、上に寒くならないようにビニールをかぶせておくと、春先にサツマが芽を出してきて、その上を切っておくとサツマができるんですよ。買うと1本 15 円くらいなんですけど、何本も植えるときはそういうのして作って、あと今畑で作っているのは、生姜、大きい生姜と小さい生姜を作ってます。生姜は、自分で作って、食べる分は別に作って、来年の種用に作って、だいたい 11 月頃霜が降りるちょっと前に採って発泡スチロールへ土を入れて、それにいっぱい並べてそしてまた土を入れて、横穴空けて、防空壕みたいに横穴があるんですよ。湿度に気を付ければ来年の春までもつんですよ。

植物種: サツマイモ・ショウガ

Q31. イナゴとか食べたりしないんですか？(他に)蜂の子とか(はどうですか？)

A31. 田んぼやってる時、稲刈りの時に農薬使わない田んぼにイナゴいますんで、イナゴを捕まえて、1 リットルのペットボトルに竹を切っておくと、イナゴを捕まえて入れるとイナゴが出てこれないんですよ。それで、満タンになったらほかのやつ。そしてそれを持ってきて、湯を沸かすんですよ。一気にお湯に入れちゃうんですよ。そうすると一気に青いやつが真っ赤になります。茹でて、それを揚げて甘露煮にするんですよ。

動物種: イナゴ

Q32. イナゴを食べていたのは、田んぼをやっていた時なんですか？

A32. (昔はやっていましたが、今はやっていません。昔田んぼをやっていた時には)夕方に水を田んぼに入れに行ったとき「おきばり」ってウナギを獲るおきばりっていうのを使い、ミミズを付けて川に置いておくと、ウナギが掛かるんですよ。多く獲れた時は、3匹くらい獲れたんですよ。仲間川ってところなんですけど。ウナギの他にハヤも掛かるんですけど、食べますね。

植物種: イネ

動物種: ウナギ・ミミズ・ハヤ

Q33. 昆虫で食べるのはイナゴくらいですか？蜂はどうですか？

A33. 蜂も食べます。あれは、おいしいですよ。アシナガトとスズメバチも食べました。今の若い人は食べないんですけど、幼虫を取り出して、油で炒って食べました。(蜂のほかに利用していたのは)へびですかね。へび(マムシ)を捕まえて、血を吐かせて、1週間くらいしてから焼酎に漬けるんですよ。へびの焼酎漬は、下手な湿布薬より打撲などに効きます。打撲して腫れているところとか骨折して腫れが引かないところだとかにそれをガーゼに浸して、当ててあげるとすごい効きます。

動物種: アシナガバチ・スズメバチ・マムシ

Q34. 鈴虫など鳴く虫を飼ってはいましたか？

A34. 鈴虫は飼いました。

動物種: スズムシ

Q35. 川魚は何が一番おいしいんですか？

A35. 川魚で一番おいしいのは、イワナ。イワナとかヤマメ。マスは、ワンランク落ちます。あと鶴川にモロコとかカジカとかそういうのは、あんま釣りで、あま釣りだとアユが釣れちゃうんですよ。

動物種: イワナ・ヤマメ・マス・モロコ・カジカ

資料3 B氏への聞き取り調査

Q1. ご自宅の庭などに植物など植えて利用されているもの何かありますか？

A1. 生まれた家には、池が二つあるんですよ。動物的には、そこにフナであるとか鯉であるとかあと川で釣ったヤマメとかを放つ池があるんですけど、あとは時期になるとカエル、こっちの方だと通称「ゴトンベエ」というんだけど、(家の庭の池に)毎年毎年カエルが卵を産みにくるわけですよ。昔は車なんかがなかった時代、私が5、6歳ごろですけど、その頃は先輩たちが来てカエルを取って(食べていました。)鳥のささ身みたいな感じなんですよ。焼いて食べたりして、ただメスだけは、ゴツゴツして気持ち悪くて食べませんでした。うちの方でキンゴトウ(ヒキガエル)っていうんだけどそれを取って箱に入れて持ち帰ったりしていましたね。昔は、戦争が終わって、田舎というのは食べるものが無かったので、カエルを食べていましたね。あとは、ヘビを欲しがっている人もいましたね。私は、手で捕まえずに棒で頭たたきましたね。

動物種:フナ・コイ・ヤマメ・ゴトンベエ/キンゴトウ(ニホンヒキガエル)

Q2. 植物の利用はどうですか？

A2. 今家でやっているのは、プラム、柿(甘柿と渋柿)、ミカン、ブルーベリー、柚子、実がなる木が庭にはあります。柚子は、ゆずりらの方が柚子の里と呼ばれるくらい柚子が有名で、柚子を販売などもしていたのでこちら辺も柚子は結構やっていますね。柚子は実がつくまで13年かかりましたね。

植物種:プラム・アマガキ・シブガキ・ミカン・ブルーベリー・ユズ

Q3. 柿は実を食べる以外に何か使ったりはしていましたか？

A3. 私はやっていませんでしたが、人によっては柿の渋で服を染めたりもしていました。そうすると土色みたいな面白い色になるんですよ。あとは、家のすぐ後ろに山があるんですけど山に横から穴をあけて、そこをずーっと掘っていくと水が出るんですよ。その穴にコウモリが入っていたりもしていました。(今、穴はもうない)こちら辺は山村なので、甲府盆地のように米とか何か獲れるようなものもないですし、秋山の方に行っても一部の人は田んぼをやっていましたが、こちら辺では米がとれませんでした。ですので、山を開墾して、畑にして粟や麦などを作っていました。竹の木(孟宗竹)は家のすぐそばにあるので、タケノコは採れるんですよ。ただ、今年はイノシシが食べて行ってしまいましたね。

Q4. 食べない木など他にはどんな庭木があるんですか？

A4. ツゲと松と榊を植えて、神棚に榊を使うので、あとは梅も植えていましたね。梅干を作ったりもしていました。あとは、柏餅にするために柏の木を植えたりする家もありましたね。あとは(庭で)トマトも作ったりしましたね。昔は、杉とかヒノキの木を家の材料などには使っていましたけど、今ではその手間をかけるなら買った方が安いです。だから、今はほとんど使われていません。下刈りして言って木が生えているところの下を刈るんですけど、刈る人も少なくなってきてますし、枝払いもなかなかやる人がいなくなっていますね。昔は、炭焼きをしていたんですけど炭焼きをやる人もほとんどいませんね。なので木が切られずに生態系がおかしくなって、幹は太いが根は浅い木がたくさんあって崖崩れなどを起こしやすくなっているんですよ。昔の木は短かったんですけど、根は深く張っていたんですよ。

植物種:ツゲの木・マツ・サカキ・カシワの木・トマト・ヒノキ

Q5. 山で取れた植物は桑とか？

A5. 桑は、だいたい畑で作って昔は蚕が桑の葉を食べていたので、桑畑の実を食べたり、あとは山苺とかアケビとか川伝いにはイタドリとか。太いやつの欠けるところからは食べるんですよ。

植物種:イタドリ・クワの木・ヤマイチゴ・アケビ

動物種:蚕

Q6. 山菜とかはどうですか？

A6. 山菜も一応採るんですけど、子どもの頃は採っても食べませんでしたね。ワラビとかキノコも採ったんですけど当たると嫌なので、だいたい食べるのはホウキタケとかクリタケとか決まっているんですよ。クマガイソウは山で見つけてきたり、友達にもらったりしてもなかなか増えませんか。あとはエビネは5種類くらいはあったんですよ。あとコマツツジとかもあったんですよ。白い花が咲くんですよ。山野草も昔はやってたんですけど、今はほとんどやっていないですね。40年位前まではやっていましたね。エビネやツツジは今あっても(都会から来る人が)採ってってしまうんですよ。トリカブトとかも植えたりしていました。川のところには麻薬に使うケシとかがあるんですよ。昔、先祖が医者をやっていたからなのかお墓のところにケシがたくさん咲いたんですよ。昔は、鎮痛薬としてケシが使われていたみたいですよ。あとは、ドクダミであったり色々ありますよね。

植物種:ワラビ・クマガイソウ・エビネ・コメツツジ・トリカブト・ドクダミ
菌類:ホウキタケ・クリタケ

Q7. 薬用に使っていた植物などはありますか？

A7. シドメっていう実がなるものを切ったときに塗ったり、餅草(ヨモギ)細かくしてタコ面などに塗って曇り止めにしったりしていました。
植物種:シドメ・ヨモギ

Q8. チャンバラなどには木を使っていましたか？

A8. 木とか竹などを使っていました。竹馬なども作ったりしていました。竹を一回枯らさないといけないですよ。シノダケで竿を作ったり鉄砲を作ったりもしました。子どもの頃は、遊んだものは色々あるんですけど、ある程度大きくなるとベイゴマとかメンコとか五寸釘を使った釘飛ばしとかそれからシノツツのシノを拾って地区の先輩とかと集まってチャンバラをしたり、杉の木の「杉鉄砲」を作って打ち合ったりしていました。弓を作って遊んだり、あとは、「さでわく」を作るときに木を使ったりもしました。食べ物は、野菜で作るもの以外は桑の実とかその桑の実を木で潰してドロドロにしておやつにしていました。あと、山苺という赤みがかったオレンジ色っぽい色をしているんですけど、アケビとかそういうのを取って食べていました。昔は、そういった甘いものを子どもの楽しみとして食べていました。あとは、山のそばに家(秘密基地のようなもの)を自分で作ってね。そういうのを作って遊んだりはしていました。動物なんかは、クワガタとかそれからコガネムシとかそういうのを取って、カブトムシであれば捕まえて箱の中に入れて喧嘩させたりして遊んでいました。あとは、川が近かったので釣りに行って釣れる魚が、ヤマメとかイワナとか今はイワナはほとんどいなくなったんですけど、ハヤ、あとハジカってのがいるんですけど、それを取って火を焚いて焼いて食べたりしていました。喧嘩させていた虫はクワガタ。あとはマグソムシ(カブトムシのメス)を喧嘩させていたりもしました。蜘蛛で喧嘩は、やっている人もいたのかもしれませんが私はやりませんでした。蜘蛛は、釣りの餌になりましたね。背中に針をひっかけて他に餌がない時に使っていました。川のそばに穴があって、そこから出る白い虫がいるんですよ。その虫も結構釣れるんですよ。ヤマメは、川虫じゃないと食いつきが違いますね。

植物種:シノ・スギの木・クワの実・ヤマイチゴ・アケビ

動物種:クワガタ・コガネムシ・カブトムシ・イワナ・ハヤ・ハジカ・マグソムシ・クモ・アワフキムシ

Q9. 釣りはどういう釣りですか？

A9. こっちへ来て釣るときは、釣り方が何種類もあるんですよ。ヤマベを釣るときは「あんま釣り」(川に入って釣る方法)あと普通のヤマメとかハヤとかそういうのを釣るのには、どぶ釣り(脈釣り)でよく釣っていましたよね。カジカとかそういうのはタコ面という面があってモリで突いたりしていました。あとはウナギがいるんですけど、ウナギは置き針とか。昔は置き針がなかったので(刺繍で使う)待ち針などにミズを付けて置き針にしていました。だいたい一日 20~30 くらい仕掛けて 3 本か 4 本獲れるんですね。

動物種:ヤマベ・ウナギ・ミズ

Q10. ウナギはミズとおっしゃっていたけど他の魚の餌はどうですか？

A10. 釣りの餌は、川虫(ピンチョロ)とか名前が色々あるんですけど、ヤマメが釣れるのはそのピンチョロが釣れるんですけど、石にピンチョロは張り付いているんですけど、石にもう一つ蜘蛛の糸がかかったような虫がいるんですけど、それではあまり釣れませんでした。魚によって全然違うんですよ。川虫もハヤは釣れるけど、ヤマメとかは食いが悪いんですよ。

動物種:川虫(ピンチョロ)・蜘蛛の糸がかかったような虫

Q11. もう一人の中村さんはブドウ虫を使ったとおっしゃっていましたけどどうですか？

A11. ブドウ虫っていうのはブドウを作っているところがないので店で買っていました。あとは、川のそばの餅草のところに泡虫(泡吹き虫)っていう赤い虫がいるんですけど、餌が何も無い時などはそれを餌にしていました。

動物種:アワフキムシ

Q12. この辺って昔ブドウ作っていたんですか？

A12. あまり作られていません。ブドウはないんですけど、インゲンを作った時などに蔓のところにブドウ虫と同じような虫が入っているんですけど、蔓系のやつには入っていましたね。あとは、足つるし(アシナガバチ)の蜂の子、地蜂でもいいんですけど蜂の子を取ったときに取っておいて魚の餌にしていました。その蜂の子で釣れなかったら蜂の子に変えとかはしていました。この辺の川はほとんど歩きましたね。釣りは小さい時からしていましたね。

動物種:アシナガバチのハチの子・ジバチのハチの子

Q13. 鳥を捕まえたりはしませんでしたか？

A13. かすみ網で鳥を捕まえたりもしていました。

Q14. それは、食べるんですかそれとも飼うんですか？

A14. 食べませんよ。遊びでやっていました。鶯とか。トリモチを置いておいて、メスの鳥を鳴かせるとトリモチでオスが獲れるんですよ。
動物種:ウグイス

Q15. トリモチは自分で作るんですか？

A15. 自分で作ったり、買ってきたりですね。うちは、ポンドみたいなものに混ぜて作ったんですけど、鶯などは飼ったりしました。カブトムシも幼虫から育てたんですけど、鮑小づちを箱に使ったときはもぐってしまいました。あれには薬が塗ってあるんで。今は、虫よけの薬を野菜にする人もいなくなりましたね。
動物種:カブトムシ

Q16. 上野原は雑穀が昔あったって有名ですけどそれはどうですか？

A16. 麦とか粟とか稗(ひえ)はありましたね。見ての通り山なので田んぼがないんですよ。田んぼがないので粟とか稗とか麦を食べていましたね。今はもうやっていないですね。昔は、鶴川をもっと深くして鵜飼なんかもありました。川の話になると、「せぎ」って言って川の流を変えて魚を獲るといったことをしていました。
植物種:ムギ・アワ・ヒエ

Q17. 栗とかはどうですか？

A17. 栗は食べていましたよ。でも今は、他の木が伸びすぎてしまった影響で栗の木が少なくなってきてますね。その影響もあって動物が山に住めなくなって、人の住んでいるところに出て行ってしまってますよ。
植物種:クリ

Q18. タケノコは孟宗竹がおいしいですか？

A18. うちは、真竹の方が渋みがなくて真竹の方がいいんですよ。店に売っているのは、一番孟宗竹が多くて、その次が真竹ですね。
植物種:マダケ・モウソウダケ

Q19. ご実家で牛とか馬と飼っていたりしましたか？

A19. 牛は、小さい頃に飼っていたような気はするんですけどヤギは飼っていましたね。ヤギは、乳を飲んでいましたね。あとは、豚とか。豚は小さいのを飼って育てて出荷していましたね。昔は、田舎から上野原の駅まで自分の土地で行けるくらい土地を持っていたんですよ。山にいと色々考えながら遊んでいましたね。色々考えれば、面白いものですよ。庭には、枇杷の木とぼぼの木っていう実のなる木もありましたね。
植物種:ビワ・ぼぼの木
動物種:ウシ・ヤギ・ブタ

以上